遊楽風俗図

富山　個人蔵

四曲屏風一隻
紙本金地著色
縦六〇・七糎　横一六六・〇糎

小型の風俗図屏風（図1）であるが、描かれた内容に若干注目すべき点が見出される。以下に内容の紹介といささかの愚見を申し添える。歴史および文化史の方々の参考になれば幸いであり、また、専門の見地からのご意見をたまわりたいと思う。

画風は、狩野派や土佐派などに属さない民間画工のものと思われる。制作時期は、仕込絵的制作という事情を考慮に入れても、以下の検討に従えば江戸時代初期を下ることはないであろう。

向かって右より第一扇（以下この順、図2）。立派な塀に囲まれた邸内の遊楽を描いている。庭では、柳・松・桜・楓の樹があり、四人の男が蹴鞠に興じている光景。室内は男女が描かれ、三味線を弾く女、女の膝枕でじゃれている髭を生やした武士などが見える。奥の床には、太鼓・鼓・将棋盤・三味線・碁盤が並べられている。庭の一部は池になっており、鷺・鴛鴦が放たれている。徳川黎明会本のいわゆる相応寺屏風などと関連する、邸内遊楽図の系列に属するもの。邸前では刃傷沙汰が見え、中には手を切られて血を流して苦しんでいる情景などなまなましい描写である。

第二扇（図3）は上部に風呂屋、下部に相撲を描いている。風呂はいわゆる蒸風呂で柘榴口（ざくろぐち）がそなわる。近世初期風俗画にはしばしば風呂屋が描かれることがあるが、本図のような看板が刻明に描かれているものは、まだ管見に入っていない。本図は長方形の看板で、

与七風呂屋
侍弐拾文
小者十文
一かさかき
きんせい事
一御道具
あつからす候
仍女（如）件
三月吉日

とある。侍と小者で値段の異なることなど、文化史的に参考になると思うが、いかがであろう。なお「与七風呂」という名称について、次のような記事は留意しておいてよい。三浦浄心の『慶長見聞集』に、

……天正十九卯年の夏の比かとよ。伊勢与市といひし者、銭瓶橋のほとりに、せんとう風呂を一つ立る。風呂銭は永楽一銭なり。

とあって、これは江戸の銭湯の始まりについての記事なのであるが、本図の風呂屋の与七との関連をうかがわせる。

さて下段の相撲興行の場面であるが、小屋構造は二扇のかぶき小屋とさして変らないといえる。相撲の光景も、上杉家蔵本洛中洛外図以降の風俗画にいくつか登場するが、看板をきっちり描き込んだ

ものは、少なくとも筆者はこれ以外には見ていない。やはり長方形の看板で、

来十七日より
すまい御座候
行事岩井はり
まくわんし(勧)ん(進)本
一　早川うのすけ
一　吉田たん(丹)波
一　大坂玉かつら
一　たまむし
一　ねちかね
一　こりき
此外近江
多御座候
卯月朔

とあるが、下辺が裱装にかかって読めない。行司が「行事」と記してあるのは古風であり、「行事」の「岩井はりま（播磨）」は、織田信長時代の木瀬蔵春鞠や木瀬太郎太夫についで聞えた「行事」である。勧進元の力士名の中で「大坂玉かつら」に関しては、『義残後覚』巻五の「比丘尼相撲の事」に京都内野七本松の「勧進すまふ」を記す中に「取手」名をあげるが、その「玉かつら」がこれに当るものか。また「ねちかね」は『後覚』の同条の「すぢかね」の書き誤りとも思われる。

第三扇（図4）。遊女かぶきの小屋の光景。小屋の構造を述べると、周囲はむしろ張り、柱は竹ではなく木柱であり、桟敷もそなわる。ねずみ木戸の上の櫓には太鼓が見られ、毛槍などの具足は立てかけて置いてある。舞台は向って左に橋がかりが付き、舞台の床は吹抜けで古風であり、柱の下部に土盛りが描かれてあるのは細やかな描写といえる。舞台上、曲彔が三つあり、うち一つは誰も坐っておらず、それが今中央で演じている人物である。それは男装をして刀を差しており、向かって右脇に茶屋のかか、右側の柱のところに猿若が描かれており、演目はお国かぶきの代表的演目である「茶屋あそび」と知られる。楽器は鼓しか見当らず古風である。鼓の背後には女たちが並び、橋がかりにはずらりと幼女がいる。一座のスターが本図の場合複数であるのは静嘉堂蔵の四条河原図と同様である。静嘉堂蔵のものと共通するのは、座自体でもあって、ねずみ木戸の上の看板で確かめられる。静嘉堂蔵本では庵形、本図では長方形になっている。本図の看板では次のようにかかれている。

於此内佐渡嶋
大かふき仕候
大夫ハ
一　八十郎
一　大夫
一　あわ□
一　一角
一　ひんこ
一　いつ

これによって本図に描かれたかぶき小屋は、「六条の傾城町より佐渡島といふもの、四条河原に舞台を建て、傾城数多出して舞踊らせけり」と『東海道名所記』にある、六条柳町の遊廓主・佐渡島正吉が四条河原に出した遊女かぶきの一座であることが判明する。本図と静嘉堂蔵本の看板で一致する太夫名は「八十郎」「大夫（静嘉堂では「大ふ」）」「あわ□（「あはぢ」と同一か）」「一角」「ひんこ（備後）」。

第四扇（図5）。上半分に社殿が見え、社殿は門と築地とで仕切られている。門前は松の生えた広場であって、武士による調馬が行なわれている。境内および広場には桜の花が満開である。普通、このような光景は、洛中洛外図などにおいては北野社として描かれることが多く、北野馬場における調馬の光景も必らずといってよいほど添えられるものであるが、本図を見る限り、場所を特定し得るほどの材料はないとすべきであろう。

（狩野博幸）

図１　遊楽風俗図　　富山　個人蔵

図２　遊楽風俗図（部分）　　富山　個人蔵

図３　遊楽風俗図（部分）　　富山　個人蔵

図 4　遊楽風俗図（部分）　　富山　個人蔵

図５　遊楽風俗図（部分）　　富山　個人蔵